

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	心の森				公表日	令和6年12月21日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの様子に合わせて3階テラスや2階、1階の使用も行っている</li> <li>・設置基準上満たしているが、こどもの状況により十分ではない面もあるため、プレイルーム、アトリエ、園庭、屋上広場等を活用し、こどもの興味や気分的な状況等により活動場所を分け、安全に活動できる環境づくりをしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年の大きい子や肢体不自由児の子が多い日はスペース的にゆとりがないように感じるため、環境構成、活動面にて工夫をしていきたい</li> </ul>
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が制度上の運営基準等への理解が深まるよう、R6.11.25職員会議にて、制度上定められている職員の配置基準等について、ガイドラインをもとに職員全体で確認を実施した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配置基準上は問題がないようにしているが、日によっては職員数が少ない日もあり、子どもたち一人ひとりの状況に応じた手厚い支援という面では日によって差があるように感じるため、どこにどれくらいの配置が必要であるかの洗い出しを行っていききたい</li> <li>・保育士、運転業務職員等、今後も必要に応じて新規採用を行う等、適切な人員体制で業務が進められるようにしていきたい</li> </ul>
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備面においては、エレベーターの設置や段差の解消など、バリアフリー化がなされている</li> <li>・おもちゃ等のケースに写真が貼られている等、子どもたちにとってもどこに何があるか分かりやすい環境となっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動と場所が固定されていないので分かりにくい、言葉での説明が多い、全体が見渡せる環境であるため様々なものが目に入り気になる環境であるかもしれない等、子どもたちにとって分かりやすく、自分で活動できる環境となっているかはその都度確認をしていきたい</li> </ul>
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の清掃、消毒、ジアイーノの設置等により清潔で心地よく過ごせる環境維持を心掛けている</li> <li>・感染症発生時などは、消毒等徹底するなど状況に応じて対応をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備面で破損や変更が必要なことはないか等も定期的に職員間で確認をし、対応していく仕組み作りをしていきたい</li> </ul>
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの気分や様子に応じて臨機応変に対応し、部屋の移動や落ち着くことができる場所作りができています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続してその時々状況に合わせて環境作りをしていきたい</li> </ul>
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その日にできなくてもその週の中で職員同士で共有する場がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の職員が主になって進めているので、業務改善における目標設定や振り返りに職員全体で検討できる場、時間を設け、全体で取り組めるようにしていきたい</li> </ul>
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回依頼している保護者向け評価表を保護者等の意向等を把握する貴重な機会と捉え、業務改善策の検討や年間行事や年間業務への反映をしている（R6は、10月12日～11月2日に実施）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所全体での取り組みとして、職員全体で周知、意見交換をし、改善計画作成等一連の流れにおいて職員全体で関わっていききたい</li> </ul>
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見や相談をして新たな支援方法を学ぶ機会がある</li> <li>・定例会議等で意見交換をし、業務改善につなげられていると思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例会議以外に日々のミーティング等でも機会を作ることで、気軽に意見を言えるような職場の雰囲気作りを行っていききたい</li> </ul>
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子dayのアンケート結果が励みとなり、課題の部分も話し合うことができています</li> <li>・法人内で他施設の職員による評価を実施するなどし、結果を業務改善につなげている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価結果及び業務改善内容を事業所内で留めず、保護者の方へフィードバックしていきたい</li> </ul>

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に参加した内容を会議で報告し、職員全体で学ぶ機会がある</li> <li>・法人内委員会による法人内研修や外部の研修の受講機会を設けたり、事業所内においても計画的に研修を企画・実施している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間の研修計画を立て必要な時期に必要な学びが得られるように、事業所内研修をさらに充実させていきたい</li> </ul>
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPでも確認ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の方にとってもわかりやすい支援プログラムの見える化の検討、作成、公表（説明含む）をしていきたい</li> </ul>
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員同士で話し合い、子どもたちの成長や未来をイメージした内容も計画に入れている</li> <li>・日々の子どもたち、保護者の方との関わりによるインフォーマルアセスメントを重視し、ニーズや課題分析を行うようにしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに関わる全ての職員で計画作成に携わっていく中で、より多面的に支援を検討するようにしていきたい</li> </ul>
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース会議にて子どもの支援に関わる職員全体で子どもの状況把握を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース会議では、子どもの状況の把握を全体で行い、児童発達支援管理責任者の見立てにより計画作成をしているので、今後継続可能なケース会議の持ち方を検討し、全職員の意見が反映される、共通理解が持てるような計画作成に向けて、ケース会議の充実を目指していきたい</li> </ul>
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画書の読み合わせを職員間で行うことで、子どもたちの課題となる部分を職員間で周知し、意識して支援を行えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共有していけるような仕組みづくりをしているが、職員個人任せではなく、さらに共有しやすい方法の検討が必要。また、計画に沿った支援を実施するために個別支援計画に加えてさらに詳細化した支援手順書の導入も検討していきたい</li> </ul>
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人記録で日々の子どもたちの行動を共有している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフォーマルアセスメントにて得意なこと、苦手なことは日々の生活で理解ができているが、フォーマルアセスメントにおける情報把握も支援の土台として職員間で共有できるような仕組み作りをしていきたい</li> <li>・今後、氷山モデル等に沿って子どもたちの状況をこまかく分析し、より子どもたちの行動について全職員で共通理解を深めていきたい</li> </ul>
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の目標、家族の目標等も細かく設定しており、支援内容も大きなねらいと短期目標もあり、成長までの支援を分かりやすく示している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者にとってももちろんのこと、支援者がより共通理解を持って日々支援できるようさらに具体化されたものとしていきたい。必要に応じて支援手順書の作成もしていくなかで具体的に支援を行っていきたい</li> </ul>
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・webやポートフォリオ（見える化）を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの興味・関心、学びなどを全職員で共有していく中で、活動プログラムの立案についてもチームアプローチに繋げていきたい</li> </ul>
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの興味・関心に沿って、主体的、対話的な学びができるようプロジェクト活動を展開している</li> <li>・子どもたちの興味や関心に沿って自分で活動を選べるような環境設定をしていることで、活動において様々な経験へと繋がっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの興味・関心に沿ってプロジェクト活動を進めているので様々な活動からの学びがあると思うが、環境や職員からの問いかけ、友だちと気づきを共有することなどから、さらに次の展開へと充実を図れるよう、活動の振り返りを行い、次の展開へと繋げていける仕組み作りをしていきたい</li> </ul>
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの育ちを大切にしながら「振り返り」を集団活動として位置付け、様々な人の思いや考えにふれられる機会を作っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの状況、課題により他者との関わりの中での育ちを意識し、集団の中の個別を大切にしていることを、支援プログラムの整理をする中で見える化していきたい</li> </ul>
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳システム、会議録の活用により家庭からの連絡や子どもたちの体調等の把握、当日の送迎や業務分担について確認を行うようにしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援前に会議を行い、本日のねらいや目標、前回あったことの報告の場があると職員の話し合う時間を増え、よりよい支援につながると思うので、支援開始前に短時間のミーティングを職員全体で取り入れていきたい</li> </ul>	

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	3	・毎日の帰りの会で子どもたち、職員全体で振り返りの時間を持つことで、子どもたちの思いや成長を感じた部分などを共有する機会となっている	・会議録の確認により共有できるようにしているがタイムラグがあったり、共有できていないこともあるので、方法を検討していきたい
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1	・ドキュメンテーションや個人記録にて、子どもたち一人ひとりの成長という視点での記録を日々とっており、ストレングスを重視した支援へと生かしている	・今後、職員全体で日々の気づきを共有する方法、効率的な記録についても検討し、様々な視点での子どもの成長を捉えていきたい
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	・モニタリングにより子どもの状況を把握して保護者の方と共有すること、年2回は保護者の方と懇談の機会を持ち、成長の共有と意向の確認を行い、個別支援計画の見直しを行っている	・モニタリングの根拠となる日々のインフォーマルアセスメントを重視し、記録、見える化していきたい
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	6	0	・プロジェクト活動を通して行うことができる。地域との関わりについては、長期休暇に行うことができ、子どもたちにとっても身近な存在となっている	・今後支援プログラムをガイドラインの4つの基本活動に分けて見える化することで計画的に実施できる仕組みを作っていきたい
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	・活動は子どもの興味によって選択できるようにしている。日々の生活場面においても子どもに意思を確認したり、選択できるような仕組みを作ったりし、自己決定力を培えるようにしている	・言葉での意思表示以外にもそれぞれの子どもたちの表情、しぐさ、ジェスチャー等の意思を大切に受け止めること、事業所全体でその意識を作っていくこと、また意思表出を助長するような支援を検討していきたい
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	・サービス担当者会議においては、デイで把握している子どもの状況を明確に伝えるようにしている	・相談支援を利用されていない子どもも多く、事業所間連携の必要性を感じるので、保護者の方にも制度や目的を伝え、推進していきたい
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	・子どもの所属する学校と日常的に情報共有する中で、連携できる体制を作れるようにしている	・子どもたちの医療情報についての把握があまりできていないため、把握に向けて聞き取りを行いたい ・他デイを利用している子どもも多いため、今後事業所間連携を進め、支援の充実をはかりたい
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	・送迎の際に丁寧な伝達があることや困りごとを共有する機会がある	・今後連携をさらに充実するために保護者の意向を確認した上で、個別支援計画の共有や事業所への見学招待等を行い、連携を深めていきたい
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	0	・主に保護者を通して（もしくは保護者の同意を得て）、就学前の状況について情報共有の機会を設けている	・継続して支援者間で情報共有と相互理解に努めていく
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	0	・移行先の生活介護事業所に、放課後等デイでの個別支援計画書や支援記録を保護者の方を介して提供していただいている。また、持病についての事業所での対応について、申し送りの機会を設けている	・移行前だけでなく、その後の支援における困りごと等あれば、情報提供ができるような仕組み作りをしていきたい
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	0	・のぼら学園主催の保育見学や研修に参加をしたり、事業所交流会に参加をし、連携の強化に向けて取り組んでいる	・継続して研修参加等を行っていく
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	2	3	・同敷地内に認定子ども園があり、日常的な交流ができています	・児童館との交流など、同年齢の子どもたちとの交流を今後進めていきたい

	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	4	0	・2か月に1回開催のこども部会への参加、研修への参加等をし、横のつながりも深められるよう取り組んでいる	・継続して協議会への参加をし、横のつながりを深めていきたい
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	・送迎時にこどもたちの様子や成長を伝えられるようにしている他、ドキュメンテーションや個人記録の配信、おたより、懇談会等を通して伝えられるよう取り組んでいる	・ドキュメンテーションや個人記録の活用を行う中で、日々の小さな成長をその都度共有することを積み重ねていきたい
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	・保護者の方にプロジェクト活動やこどもたちの成長を報告する中で、一緒に学びを深める機会が家族支援の一つになると考える	・今後保護者の方のニーズも確認しながら情報提供をしたり、家族支援プログラムの実現に向けて取り組んでいきたい
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	・利用開始時に時間を作って説明をしている	・分かりやすい書面作成、丁寧な説明を利用開始時、内容変更時など、必要時に継続して行っていきたい
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	・個別懇談会にて、こどもや家族の意向を確認し、現在の課題や困りごとだけでなく、今後どんな生活を送りたいか、どんなことができるようになったらいいか、どういうところを伸ばしたいか等を確認するようにしている	・継続して行っていきたい
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	・書面で示して同意を得ている	・原案としてお渡しし、意向確認をとるようにしているが変更点や重点的に取り組みたい点をわかりやすく伝える方法を検討していきたい
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	・送迎時に話し合うことや相談を受け、その都度対応している	・個別支援計画にも明記はしているが、保護者の方からのご相談や気になる様子があれば、面談の機会を持ったり、情報提供や他機関の紹介など必要に応じて対応してしていきたい
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2	・親子デイを行い、保護者の方だけでなく、きょうだいも参加している方が多く、保護者同士の交流や活動を行うことができた	・こどもの年齢幅が広く、必要な支援も大きく違うので、状況の近いこどもの保護者間で交流できるような機会も作ってほしい ・保護者のニーズも確認しながら、保護者同士の交流の視点を大切に、様々な形で機会を作ってほしい
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	・重要事項説明書にて、苦情受付対応窓口の記載と説明を行っている ・苦情があった際は職員で話し合うことや改善方法を考えて対応できている	・苦情には迅速に対応し、保護者に示しているが、苦情対応の体制について周知する機会を設けたい
	42	定期的な通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	・Instagramや毎月のおたよりでこどもたちの活動を発信している	・発信だけに終わらず共通理解が得られているかなども確認したり、見ていただきやすい内容や得たい情報となっているか検討をしたりしてほしい
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	・施設の掲示物の個人情報の取扱いや保護者の方への申し送りの際にも留意している	・年度ごとに保護者に意向確認をすることを継続していく ・職員研修等で定期的に個人情報の取扱いを確認、自己チェックを行う機会を設けたり、個人情報の取扱いの重要性を啓発をしたりしてほしい
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	・送迎の際等、日々の情報共有を心掛けていき、保護者の方と連携がとれるよう配慮している	・継続して最適な方法を検討していく
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4	・地域行事に招待していただいた際に、こどもたちと共に参加をする機会を作っており、またその際に見られたこどもたちの姿や学びについて振り返り、共有するなどし、地域との関わりを深められるよう努めている	・地域との関わりを深めることを目的に、地域への理解を深めたり、小さな関わりを継続したりしていく中で、プロジェクト活動として継続的に、広げていきたい

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	1	3	・マニュアルの策定をし、訓練にて救急要請やAED使用、心肺蘇生などの内容を行っている	・マニュアルや対応を保護者の方に共有する機会として、定期的に事業所での対応を発信したり、保護者会等で活動内容について説明する機会を作っていきたい
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1	・夏休み、冬休み等、長期休暇の際に避難訓練や防犯訓練に子どもたちも参加をし、実施している	・継続して実施していく ・実施時の様子や課題の発信をしたり、保護者の方にも参加していただけるような機会を作ったりしていきたい
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	・服薬やてんかん発作等、職員で共有し、発作の見守りも対応できている	・アセスメントシートの様式見直しを行い、必要な情報を誰が対応しても取れるような仕組み作りをしていきたい
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	・個々に合わせた食事の対応ができている	・アレルギーの子がいないため分からないという意見があったため、必要に応じて施設内研修等を実施し、職員の対応力を向上していきたい
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1	・危険な場所や子どもたちの好きなもの（石鹸・液体）などを職員全体で確認、周知し、注意することができている	・安全計画の周知や定期的な研修や訓練を実施していきたい
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1	・けががあったときの安全面の見直しや安全を配慮した上での対応を伝えることができている	・非常災害時の引き渡し等についてご家族様にもご協力をいただき、定期的な訓練を継続していきたい
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	・ヒヤリハット事例を記録している	・ヒヤリハットの日々の共有から職員全体で意識を高めるほか、記録からの集計をとり、分析し、事故防止に努める流れを作っていきたい
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	・虐待防止研修においては、不適切なケアから事前に虐待の芽を摘むことを重視し、スピーチロック等への意識を高め、子どもたちへの言葉がけを見直しすることができている ・虐待防止委員会で毎月検討した内容を、事業所内でも周知することで意識の向上に努めている	・日々の支援を振り返る中で、自分たちの支援について日常的に考えられる職場風土を継続して作っていきたい
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	・会議で話し合うことや一人に対応するのではなく職員全体で助け合い、対応していく安心感もある。身体拘束の可能性が高くなる子どもについても保護者の方と相談や話し合いができている	・身体拘束等適正化についての研修の継続により理解を深めることと、身体拘束をしない環境作りや他に方法を検討できるような支援現場を作っていきたい	